

平成 29 年度

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1492900087	事業の開始年月日	平成21年10月1日
		指定年月日	平成21年10月1日
法人名	株式会社 ニチイ学館		
事業所名	ニチイケアセンター厚木愛甲		
所在地	(243-0035) 神奈川県厚木市愛甲1丁目12番20号		
サービス種別 定員等	<input type="checkbox"/> 小規模多機能型居宅介護	登録定員 名	
	<input checked="" type="checkbox"/> 認知症対応型共同生活介護	通い定員 名	
		宿泊定員 名	
		定員計 18名	
		ユニット数 2ユニット	
自己評価作成日	平成29年12月29日	評価結果 市町村受理日	平成30年4月5日

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	
----------	--

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

『その人らしく、いつまでも』をモットーにしているホームです。閑静な住宅街に位置し、地域の方々の深い理解とご協力をいただきながら運営しております。認知症を理由に施設内だけの閉鎖的な空間での生活を強わず、積極的に地域行事への参加や外出の機会を設け、入居者は職員本位の日課で過ごす事無く、生活全般に入居者の思いを組み入れ、力を発揮していただき職員とご入居者の関係は、介護をする人と介護を受ける人ではなく、共に暮らす家族のような存在となれるよう努めています。また職員はホームヘルパー2級以上の資格所持者で、介護福祉士資格所持者も7名在籍しております。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	公益社団法人 かながわ福祉サービス振興会		
所在地	横浜市中区山下町23番地 日土地山下町ビル9階		
訪問調査日	平成30年1月17日	評価機関 評価決定日	平成30年3月28日

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

【事業所の概要】
この事業所は、小田急線愛甲石田駅から徒歩約7分の商店やレストランなどが立ち並ぶ県道から奥に入った住宅地に位置する。2階建て2ユニットで地域密着型通所介護事業所が併設され、広い駐車場やテラス、菜園などがある。

【利用者主体の支援の実践】
「ほほえみの誓い」の理念に基づき、「その人らしく、いつまでも」をモットーにして、一人の人間として尊厳と自立を守るように支援している。職員は日頃から利用者の食べたいものや行きたいところ、会いたい人など、できるだけ多くの思いや意向を把握するよう努めている。利用者の要望を取り入れた献立の食事は手作りで、調理が得意な利用者や職員と一緒にいる。職員は全員経験豊富な有資格者で、常に利用者へ寄り添い、見守りを重視して、利用者本人の能力に応じた支援を実践している。職員は支援の向上に努めている。

【地域との連携強化】
愛甲宮前自治会に加入し、盆踊り、どんど焼きや防災訓練などに参加している。近隣の中学校の吹奏楽や傾聴ボランティアの来訪があり、今後フラダンスのボランティアを予定している。近隣のコンビニエンスストアに災害時の一時避難場所提供をお願いしている。

【医療連携】
内科医と歯科医の往診があるほか、訪問看護師が毎週健康管理に訪れている。また24時間オンコール体制があり、医療との連携を行っている。

【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
I 理念に基づく運営	1 ~ 14	1 ~ 7
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15 ~ 22	8
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23 ~ 35	9 ~ 13
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36 ~ 55	14 ~ 20
V アウトカム項目	56 ~ 68	

事業所名	ニチイケアセンター厚木愛甲
ユニット名	海

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の
			2, 利用者の2/3くらいの
			3, 利用者の1/3くらいの
			4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員と一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある
			2, 数日に1回程度ある
			3, たまにある
			4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と
			2, 家族の2/3くらいと
			3, 家族の1/3くらいと
			4, ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように
			2, 数日に1回程度ある
			3, たまに
			4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている
			2, 少しずつ増えている
			3, あまり増えていない
			4, 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が
			2, 職員の2/3くらいが
			3, 職員の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が
			2, 家族等の2/3くらいが
			3, 家族等の1/3くらいが
			4, ほとんどいない

平成 29 年度	外部 評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて 期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ニチイケアセンター厚木愛甲の誓いを、毎日の夕方の申し送りの際に唱和を行い、共有し、業務に流され忘れず実践できるよう心掛けている。	開設時管理者と職員で作成した事業所理念「ほほえみの誓い」を念頭に「その人らしく、いつまでも」をモットーとしている。朝夕の引継ぎ時に唱和して、職員の認識を深めている。利用者の尊厳と自立を守り、献立は利用者の要望を取り入れ、利用者も調理に参加している。職員全員が有資格者で見守りを重視しながら、きめ細かな支援を実践している。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会への加入、地域行事とホーム行事への相互参加等日常的な交流をしている。	愛甲宮前自治会に加入し、利用者と職員は盆踊りやどんど焼きなどに参加している。散歩時には近隣の方と挨拶を交わしている。自治会長とは連携が取れており、地域の情報の提供がある。中学校の吹奏楽や傾聴などのボランティアの来訪があり、今後フラダンスのボランティアも来訪予定である。併設の地域密着型通所介護事業所の利用者との交流もある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	積極的に地域行事に参加しており、実際に認知症の方々と接する時間を作っていただき、地域との理解を深めている。		

平成 29 年度	外部 評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて 期待したい内容
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	ご家族とサービスに関する意見を交わしたり、地域の方々々と近況報告をしている。	2ヶ月ごとに開催しており、利用者家族代表・自治会役員・民生委員・地域包括支援センター職員・地域福祉推進委員・訪問看護師などが参加している。事業所の活動状況、行事報告のほか、自治会長より地域の行事の案内がある。外部評価の結果についての報告もしている。本年度管理者の変更時に運営方針を再確認した。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	行政サイドも親身な対応をしてくれており、相談や、情報共有ができています	厚木市健康保険課が窓口で、要介護認定申請手続き代行や介護保険法に基づく事故報告書の提出を行い、その際に意見交換している。厚木介護保険事業所連絡協議会に参加して、行政や他の事業所との情報交換、交流を図っている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関とユニットドアの施錠は防犯上夜間のみ実施しているが、その他施錠を含めた身体拘束の実施は全職員共通の認識を持ち行っていない。	身体拘束をしないことを、重要事項説明書に明記して、契約時に説明している。毎年マニュアルに基づいて研修を実施している。玄関やユニットの入り口は夜間のみ施錠し、職員が見守りを重視して、不意の外出に備えている。管理者は「ちょっと待ってね」などという職員の言葉には、注意を払っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	入社時、及び年間の研修計画の中で、高齢者虐待防止法の学習があり、最低年に1回の振り返りが行えている。		

平成 29 年度	外部 評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて 期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	既に成年後見人制度の案内をし、導入ケースが複数ある。制度についての研修は管理者が中心となるが参加をしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約、解約時には、十分な説明とご理解を得よう努めている。理解、同意を頂いた上で契約を取り交わしている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご意見箱の設置、年1回のアンケート実施を行っているが、家族会や、面会の際などでもホーム、職員への要望、ご意見を伺うよう努めている。	運営推進会議や来訪時に、家族の意見や要望を聞いている。来訪のない家族には、月1度電話で近況をは報告している。法人が毎年アンケート調査を実施しており、出てきた意見に対処している。トイレの清掃が行き届いていないという意見があり、消毒用のスプレーを用意して、一日3回の清掃のほか、その都度気付いた時に清掃するように改善した。家族会があり重要事項の変更時に開催している。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ユニットごとで行う業務ミーティング等で職員の意見、提案を受けている。	毎月ユニットごとの「業務ミーティング」で、職員の意見や要望を把握している。食事が食べられなくなってきた方に、ミキサー食対応の福祉用具の活用提案があり、採用したところ状態が改善した例がある。オムツからリハビリパンツに移行するタイミングなど個別の具体的な支援方法の提案が多くある。朝夕の引継ぎ時には「業務管理日誌」に記入して情報を共有している。管理者は話しやすい雰囲気作りに努めており、職員は気軽に意見や要望を伝えている。	

平成 29 年度	外部 評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて 期待したい内容
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員評価制度や、時給者においてもキャリアアップ制度等が整っており、向上心を持ち業務に携われる環境がある。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員は、雇用形態や職種ごとの社内研修を受けている。外部研修参加は推進しているが、慢性的な職員不足もあり参加できていないのが現状。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	厚木介護事業所連絡会への加入をしており、他事業所との交流機会が持っている。見学などの相互訪問もあり、質の向上に繋がるよう努めている。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居の相談時から、ご本人やご家族の困り事、心配事、求めている事を、誠意を持ち伺うよう努めている。スタッフも特に入居初期においては傾聴を重んじている。		

平成 29 年度	外部 評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて 期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	初期における聞き取りは、充分時間をかけ、より良い関係作り努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人とご家族がその時に必要としている支援は何なのか？をしっかりと聞き取り、提案も行いながら決定するよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	介護する人と介護される人の関係ではなく、共に暮らし、お互いに支えあいながら生活をする家族的な存在となるよう心がけている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご入居者を支えていただく為の大事な一員として共に考えていけるよう、心掛けています。来訪時には近況報告や面談を行い、ご希望や、ご意見を頂いたり、家族と過ごす時間の尊重をしています。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	一部の方には、手紙や電話での通信支援を行っている。家族以外でも馴染みの関係の方の面会があったり、共に外出されている方もいる。	利用者は地元の方が多く、長年の友人や知人の来訪があった時は、居室に通し湯茶でもてなしている。年賀状の宛名書きや投函、電話の取次ぎなどを支援している。入居前の習慣であるスポーツ新聞の購読や友人への誕生日のプレゼント作成、手紙の支援などを行っている。家族対応で墓参りに行く方もいる。	

平成 29 年度	外部 評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて 期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者同士の関係の見守りをし、孤独にならないよう話題提供、レク実施等を行っているが、一人で過ごす時間を好む方もあり、自室で長時間過ごす方もいる		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去後も、その後家族との交流が続いている。相談などがあった場合には適宜応じている		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	日常生活の中での関心度合いや積極性などからの判断や、言語的な訴えでの聞き取り、過去の生活歴や家族からの情報提供で希望要望を把握するよう努めている	常日頃から職員は、利用者の食べたいもの、行きたいところ、会いたい人などの要望を把握するよう努めている。入浴時など1対1の機会を利用して職員は意見や要望を聞いている。誕生日には要望に沿って個別にお祝いしている。献立作成時にも利用者の要望を取り入れている。言葉が出にくい方には表情や態度、家族などから意見や要望を聞くように努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前状況は、家族やケアマネ等から情報収集をしており、生活歴や嗜好、性格などの把握に努めている。		

平成 29 年度	外部 評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて 期待したい内容
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ご本人のその時々々の心身状態や意欲、能力を共有し、その人らしく暮らせるよう努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	定期的にカンファレンスを行っている。本人希望要望は日常の会話や生活の中から汲み取るなどの工夫をし、必要に応じ医師や看護師等の助言アドバイスを頂いている。	入居前に管理者やケアマネジャーが在宅訪問して、アセスメントを実施している。その後職員を中心としてサービス担当者会議を実施し、介護計画書を作成している。医師などの意見も取り入れて利用者家族に説明し同意を得ている。原則3ヶ月から6ヶ月ごとに見直しており、変化のある場合はその都度対応している。介護計画書のサービス内容の番号と介護記録の番号が合致しており、計画に沿った支援提供、記録がされている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人記録、管理日誌を活用し情報共有はできている。また月に1度ミーティングを開催しており、その際に今後の対応方法などを見直している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々々に生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	お客様本人からの要望は、危険がない限りなるべく叶えられる様努力をしている。ご家族からの要望や、状態変化に応じ、可能な限り柔軟な対応を心掛けている。		

平成 29 年度	外部 評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて 期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	自治会行事参加やホーム行事への地域住民参加、ボランティア来訪などで心身ともに豊かな暮らしを得られるよう勤めている。		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、家族の希望を尊重し、主治医決定をしてもらっており、入居時にはホーム提携医の紹介を行っている。 提携医に対しての受診支援は積極的に行っている。	契約時に協力医の紹介をしている。月1回、協力医が、週1回、歯科医が来訪している。訪問看護師も来訪し、健康管理などを行っている。24時間オンコール体制である。職員対応で近隣の整形外科に通院する方もいる。その際は、往診前にファックスで状態を医師に知らせ、往診時には職員が立ち会って、「受診・健康管理記録」に記入している。個人契約のクリニックの往診や訪問マッサージの来訪がある。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護師、提携医療機関看護師とは情報の共有、相談等を日常的に行っており、24時間体制で連絡が可能。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	提携医には入院加療が必要な場合も早期退院を要望し理解協力を得ている。		

平成 29 年度	外部 評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて 期待したい内容
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化、終末期に対しての指針の説明と同意を頂いており、入居段階での家族の思い、考え方を聞き取る努力をしている。事業所としては重度化における対応に関わる指針をスタッフで周知しており、退去者があった後のミーティング等で理解を深めるよう動機付けている。	契約時に「重度化した場合における対応に係る指針」を説明し同意を得ている。重度化した場合には家族、医師、職員でその都度話し合って対応している。往診医、訪問看護師による24時間オンコールなど、医療連携の体制はできている。	今後、利用者の重度化がさらに進む可能性があります。適切なケアが行えるように重度化対応についての職員研修を実施することを望みます。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	業務ミーティングで自社マニュアルを使用しながら対応の確認しており、そのマニュアルはいつでも観覧できるように保管している。	/	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回消防訓練を行っており、災害時の避難、指定避難場所までの経路を全職員把握している。自治会の防災訓練参加も行き、災害時の協力について自治会の理解も得られている。	年2回防災訓練を実施しており、内1回は消防署の立ち合いがある。事業所の防災訓練には地域の方の参加はないが、地域の防災訓練には参加している。本年度夜間を想定した訓練は実施していない。緊急時連絡網は整備されており、職員が休みの場合でも緊急の呼び出し対応ができている。備蓄は食料、飲料水など3日分があり、利用者ごとの非常持ち出し防災バックを備えている。	事業所の防災訓練に地域の方の参加を望みません。運営推進会議などを通して、積極的な自治会長への働きかけを期待します。さらに、常に最悪の場合を考えて夜間を想定した訓練を実施することを希望します。

平成 29 年度	外部 評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて 期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者ひとりひとりの慣れ親しんだ話し方、呼び方に合わせているが、馴れ合いになったり、言葉使いが荒くなったり、自尊心を傷つける可能性があることも含め十分な配慮を要する。	「ほほえみの誓い」の理念の実践を通して人権尊重とプライバシーの確保に努めている。接遇と個人情報保護については毎年研修を実施している。利用者の呼び方については、利用者の意向を確認し、それに応じて呼び方を変えている。管理者は言葉遣いについて、その都度気付いた時点で職員に指導している。トイレ誘導はさりげなく行っている。トイレと浴室が隣同士なので、失禁汚染時には対応しやすい環境になっている。個人情報を含むファイル等は鍵のかかる書庫に保管し、利用者名はインシタルで記入している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	衣類選択や家事参加、外出時の準備や理美容の際、なるべく本人に希望を伝えていただき、希望要望の少ない方は本人本意の視点で良いと思われる事を決定していくようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	希望に沿った1日を自身のペースで過ごせるよう支援している。		

平成 29 年度	外部 評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて 期待したい内容
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	希望に則り理美容の支援を行い、外出やイベント時は、女性はメイクをしたりマニキュアなどで普段以上に身だしなみを整えるという事でその人らしく、女性らしい楽しみを支援している。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	参加意欲や能力に応じたお手伝いをお願いし、共に食事作りや片付けを行っている。	献立は利用者の要望を取り入れて、職員が作成している。食材の調達は、ネットスーパーや近隣のスーパーマーケットを利用している。食事は職員と利用者が一緒に作っている。利用者は調理や後片付けなどができる範囲で職員と一緒にしている。訪問時利用者がごぼうのさがきをしており、職員が傍らで見守っていた。誕生日会やクリスマスなど行事に合わせて外食や出前を楽しむこともある。体調に応じてきざみやとろみ食などの対応をしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	身体状態、習慣、好みに合わせた形での食事提供をし、食事と水分摂取量は記録をし、1日の必要量を摂取できるよう努めている。		

平成 29 年度	外部 評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて 期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	力量、習慣に合わせ個別に支援をし、訪問歯科での義歯調整や口腔内チェックも実施している。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	自立の方もいるが、定時誘導のほかに個々の表情、行動を見て誘導をし、パッドやリハパンの利用減に努めている。排泄支援時は、失禁があっても1度はトイレに着座をし、残尿など無いようスッキリとして頂き、トイレでの排泄習慣が取り戻せるよう支援を行っている。	自立の方が現在4名で、他の方はリハビリパンツやパットを使用している。夜間はトイレ誘導やベッドでのオムツ交換をしている。排せつチェック表からリズムを把握し、個別に声掛けや誘導を行い、できる限りトイレでの自力排泄ができるように支援している。トイレには消毒用のスプレーを導入し、「汚れた場合、水できれいに拭いてください」の表示があり、利用者も清掃を行っている。トイレ表示は大きくわかりやすくなっている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	飲食物の工夫、十分な水分摂取の促しと、量の記録を行い、適度な運動を日常生活に取り入れている。便秘傾向の強い方には医師と相談の上、下剤使用者もいる。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	ご入居者の入浴習慣や体調、身体能力に合わせて臨機応変な入浴の支援を行っているが、重度介助の方の入浴支援は計画的に実施をしている	入浴は週2回を基本とし、利用者の要望があれば対応している。入浴を好まない方には時間をかけ、対応する職員を変えたりして工夫している。同性介助の希望はないが、要望があれば対応できるようになっている。菖蒲湯やゆず湯を楽しむこともあり、お湯は1回ごとに入れ替えている。ヒートショック対策のため、脱衣所はエアコンと床暖房を完備している。	

平成 29 年度	外部 評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて 期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	疲労度合いや、夜間の睡眠状態に応じて午睡の促しをする事もある。自室に限らずソファや和室等、くつろげる場所で過ごしていただいている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方薬については全職員が把握できるようファイルに綴じ管理をしている。服薬時は2重チェックを実施。処方の変更や追加薬があった場合には特に変化に留意するよう周知している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日常的に役割を持った生活をしてもらえるよう働きかけ、ホーム全体、ユニットごと、個別等、年間を通じ楽しみごとのある生活を送れるように支援している。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩、買い物は日常的に実施し季節ごとの外出や地域行事参加を実施し、家族との外出などは自由に行っていただいている。	天気の良い日はできる限り散歩に出かけるように努めている。1階のテラスで日光浴や外気浴をする方もいる。年2回の床清掃日を利用して外出行事を計画し、外食などを楽しんでいる。消耗品の購入に近くの薬局に職員と一緒に出掛ける方もいる。家族対応で墓参りや外泊をしている利用者もいる。盆踊りやどんど焼き、敬老会などの地域の行事には積極的に参加して、地域の方と交流を図っている。	

平成 29 年度	外部 評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて 期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	トラブル回避の為、基本的には金銭所持はないが、本人や家族希望がある場合、家族の理解と協力を得て小額所持をしている方もいる。事業所として預かっているこづかい金もある為、買いたいものがある場合には支援をしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	個々の要望、力量に応じ、手紙、電話での家族との交流支援を行っている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	浴室、トイレ等の明示を行っている。今日の月日がわかるカレンダーをリビングに作り、生活感、季節感が過度にならないよう装飾等を行っている。	リビングはバリアフリー構造で、窓は大きく明るい。加湿器を設置し、毎日利用者と職員が掃除している。また年2回の業者による床清掃があり、行き届いてる。訪問時は、季節感のある手作りの日めくりカレンダーや貼り絵が飾られていた。階段室壁面には利用者と職員が共同制作した大きなフラワーアートが掲示されていた。トイレは各フロア3ヶ所で車椅子対応は1ヶ所となっている。庭には桜、梅、ミカン、キンカンなどが植えられ、整然と管理されている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	自由に過ごせるソファセット、ウッドデッキ、和室がある。		

平成 29 年度	外部 評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて 期待したい内容
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた愛用の家具やベッド、大切にしている思い出の品などを入居時に持参いただいている。又趣味のものや、家族の思い出の品なども、お持ち込み頂き安心して過ごせるようにしている。	エアコン、照明器具、カーテン、クローゼット、スライド式ハンガーなどが備えられている。利用者はテレビやタンス、家族の写真など、馴染みのものを持ち込んでいる。清掃は利用者と職員が実施しており、居室担当者が衣替えなどを行っている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	普通に生活するというスタンスの中で、出来る事には安全にトライできるよう見守っている。過剰な介護を控え、見守るスタンスを大切にしている。		

事業所名	ニチイケアセンター厚木愛甲
ユニット名	山

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の
			2, 利用者の2/3くらいの
			3, 利用者の1/3くらいの
			4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある
			2, 数日に1回程度ある
			3, たまにある
			4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と
			2, 家族の2/3くらいと
			3, 家族の1/3くらいと
			4, ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように
			2, 数日に1回程度ある
			3, たまに
			4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの広がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている
			2, 少しずつ増えている
			3, あまり増えていない
			4, 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が
			2, 職員の2/3くらいが
			3, 職員の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が
			2, 家族等の2/3くらいが
			3, 家族等の1/3くらいが
			4, ほとんどいない

平成 29 年度	外部 評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて 期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ニチイケアセンター厚木愛甲の誓いを、毎日の夕方の申し送りの際に唱和を行い、共有し、業務に流され忘れず実践できるよう心掛けている		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会への加入、地域行事とホーム行事への相互参加等日常的な交流をしている		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	積極的に地域行事に参加しており、実際に認知症の方々と接する時間を作っていたいただき、地域との理解を深めている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	ご家族とサービスに関する意見を交わしたり、地域の方々と近況報告をし		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	行政サイドも親身な対応をしてくれており、相談や、情報共有ができています		

平成 29 年度	外部 評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて 期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関とユニットドアの施錠は防犯上夜間のみ実施しているが、その他施錠を含めた身体拘束の実施は全職員共通の認識を持ち行っていない		
7	###	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	入社時、及び年間の研修計画の中で、高齢者虐待防止法の学習があり、最低年に1回の振り返りが行えている		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	既に成年後見人制度の案内をし、導入ケースが複数ある。制度についての研修は管理者が中心となるが参加をしている		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約、解約時には、十分な説明とご理解を得るよう努めている。理解、同意を頂いた上で契約を取り交わしている		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご意見箱の設置、年1回のアンケート実施を行っているが、家族会や、面会の際などでもホーム、職員への要望、ご意見を伺うよう努めている		

平成 29 年度	外部 評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて 期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を 設け、反映させている	ユニットごとで行う業務ミー ティング等で職員の意見、提 案を受けている		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、 給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働け るよう職場環境・条件の整備に努めている	職員評価制度や、時給者にお いてもキャリアアップ制度等 が整っており、向上心を持ち 業務に携われる環境がある		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握 し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニ ングしていくことを進めている	職員は、雇用形態や職種ごとの 社内研修を受けている。外部 研修参加は推進してはいるが、 慢性的な職員不足もあり参加 できていないのが現状		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネッ トワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービ スの質を向上させていく取組みをしている	厚木介護事業所連絡会への加 入をしており、他事業所との 交流機会が持っている。見学 などの相互訪問もあり、質の 向上に繋がるよう努めている		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安 なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための 関係づくりに努めている	入居の相談時から、ご本人や ご家族の困り事、心配事、求 めている事を、誠意を持ち伺 うよう努めている。スタッフ も特に入居初期においては傾 聴を重んじている		

平成 29 年度	外部 評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて 期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	初期における聞き取りは、充分時間をかけ、より良い関係作り努めている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人とご家族がその時に必要としている支援は何なのか？をしっかりと聞き取り、提案も行いながら決定するよう努めている		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	介護する人と介護される人の関係ではなく、共に暮らし、お互いに支えあいながら生活をする家族的な存在となるよう心がけている		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご入居者を支えていただく為の大事な一員として共に考えていけるよう、心掛けている。来訪時には近況報告や面談を行い、ご希望や、ご意見を頂いたり、家族と過ごす時間の尊重をしている		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	複数のお客様へは手紙や、電話での通信支援を行い、身元保証人様より、特段のお申し出が無い限り、訪ねてきた方との面談をしてもらっている		

平成 29 年度	外部 評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて 期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者同士のコミュニティを把握するよう努め、入居者同士もお互い様と思える雰囲気を作り、相互の関係を見守っている		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去後も、その後家族との交流が続いている。相談などがあった場合には適宜応じている		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	自ら希望等が話せる方には、そのためにどうしたらいいか等の案を出し、言語でうまく表現できない方の場合、本人本位に検討をしている		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前状況は、家族やケアマネ等から情報収集をしており、生活歴や嗜好、性格などの把握に努めている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ご本人のその時々々の心身状態や意欲、能力を共有しその人らしく暮らせるよう努めている		

平成 29 年度	外部 評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて 期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	定期的にカンファレンスを行っている。本人希望要望は日常の会話や生活の中から汲み取るなどの工夫をし、必要に応じ医師や看護師等の助言アドバイスを頂いている		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人記録、管理日誌を活用し情報共有はできている。また月に1度ミーティングを開催しており、その際に今後の対応方法などを見直している		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	お客様本人からの要望は、危険がない限りなるべく叶えられる様努力をしている。ご家族からの要望や、状態変化に応じ、可能な限り柔軟な対応を心掛けている		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	自治会行事参加やホーム行事への地域住民参加、ボランティア来訪などで心身ともに豊かな暮らしを得られるよう勤めている		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人家族の希望を尊重し主治医決定をしてもらっており、入居時にはホーム提携医等の紹介を行っている 提携医に対しての受診支援は積極的に行っている		

平成 29 年度	外部 評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて 期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護師、提携医療機関看護師とは情報の共有、相談等を日常的に行っており、24時間体制で連絡が可能		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	提携医には入院加療が必要な場合も早期退院を要望し理解協力を得ている		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化、終末期に対しての指針の説明と同意を頂いており、入居段階での家族の思い、考え方を聞き取る努力をしている。事業所としては重度化における対応に関わる指針をスタッフで周知しており、退去者があった後のミーティング等で理解を深めるよう動機付けている		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	業務ミーティングで自社マニュアルを使用しながら対応の確認しており、そのマニュアルはいつでも観覧できるよう保管している		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回消防訓練を行っており、災害時の避難、指定避難場所までの経路を全職員把握している。自治会の防災訓練参加も行い、災害時の協力について自治会の理解も得られている		

平成 29 年度	外部 評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて 期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉 かけや対応をしている	入居者ひとりひとりの慣れ親しん だ話し方、呼び方に合わせている が、馴れ合いになったり、言葉使 いが荒くなったり、自尊心を傷つ ける可能性があることも含め十分 な配慮を要する		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるよ うに働きかけている	衣類選択や家事参加、外出時 の準備や理美容の際、なるべく 本人に希望を伝えていただい ており、希望要望の少ない 方は本人本意の視点で良いと 思われる事を決定していくよ うにしている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペー スを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって 支援している	希望に沿った1日を自身のペー スで過ごせるよう支援してい る		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	希望に則り理美容の支援を行 い、外出やイベント時は、女 性はメイクをしたりマニキュ アなどで普段以上に身だしな みを整えるという事でその人 らしく、女性らしい楽しみを 支援している		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かし ながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	日常的に入居者と共に行って いる		

平成 29 年度	外部 評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて 期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	身体状態、習慣、好みに合わせた形での食事提供をし、食事と水分摂取量は記録をし、1日の必要量を摂取できるよう努めている		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	力量、習慣に合わせ個別に支援をし 訪問歯科での義歯の作成や、補修、調整また口腔内チェックも実施している		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	自立の方もいるが、排泄パターンや習慣を把握し、個々の表情、行動を見て誘導をし、パットやパンツの利用者は常に不快が無い状態でいられるよう支援を心掛けている		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	飲食物の工夫、十分な水分摂取の促しと、量の記録を行っている。日常的に適度な運動、散歩を生活に取り入れている。各種予防策を試しても便秘が解消されない方は下剤服用を行っている		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	介助を必要とする方は2～3日に1回の入浴を目標にご本人様の体調等考慮しながら支援している。自立の方に関しては要望があれば9：00～20：00までであれば自由に入浴できるよう支援している。		

平成 29 年度	外部 評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて 期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜間は睡眠や入眠障害に対しては医師への相談をするが生活習慣での遅い入眠や起床は生活上支障がなければ個々の習慣や気持ちを尊重をしている。昼寝等も体力や習慣を重んじている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方薬については全職員が把握できるようファイルに綴じ管理をしている。服薬時は2重チェックを実施。処方の変更や追加薬があった場合には特に変化に留意するよう周知している		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日常的に役割を持った生活をしてもらえるよう働きかけ、ホーム全体、ユニットごと、個別等、年間を通じ楽しみごとのある生活を送れるように支援している		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩、買い物は日常的に実施しており、活動的な方も多く、1日に複数回の外出支援もある。季節ごとには旅行等も実施している		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	トラブル回避の為、基本的には金銭所持はないが、本人や家族希望がある場合、家族の理解と協力を得て小額所持をしている方もいる。事業所として預かっているこづかい金もある為、買いたいものがある場合には支援をしている		

平成 29 年度	外部 評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて 期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望がある場合、手紙、電話での家族との交流支援を行っている、毎年手書きの年賀状を家族に出している		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室、浴室、トイレ等の明示を行い、季節の間違えが無いよう季節感を取り入れた空間演出を過度にならないよう実施している		
53		○共用空間における一人ひとりの居場 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い通りに過ごせるような居場所の工夫をしている	自由に過ごせるソファセット、和室がある 利用者同士でくつろぐ場合には相互の居室訪問も多い		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた愛用の家具やベッド、大切にしている思い出の品などを入居時に持参いただいている。又趣味のものや、家族の思い出の品なども、お持ち込み頂き安心して過ごせるようにしている		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	出来ること、出来そうなこと、わかること、わかりそうなことに対して、過剰な手出しや声かけをせず、自立した生活が送れるように努めている		

目 標 達 成 計 画

事業所名

ニイケアセンター 厚木愛甲

作成日

平成30年4月11日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目 標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1	33	ご利用者様が重度化した際に適切なケアが行えるか。	ご利用者様が重度化した場合も安心して生活が続けていける施設である。	・医療連携の強化。 ・職員研修を実施し全職員が同じケアが出来るよう情報・知識の共有をしていく。	今年度中
2	35	防災訓練に地域の方か参加、夜間想定訓練を実施	積極的に地域の方か参加していただき、意識の共有かできる。	マニュアルを確認しながら動きの確認・消火器の位置の確認・通報方法の確認後駐車場へ避難誘導実施。 水消火器を使用した消火訓練の実施。	3/22に夜間想定訓練実施。 地域の方の参加はなかったため次回再度お願いをしていく。
3					
4					
5					

注) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。